



浦和麗和会

同窓会活動と社会貢献

浦和麗和会会長 岩測 均



前回の会報で浦和麗和会は「三兎を追おう」と書きました。1兎は親睦、2兎は社会貢献、3兎は経済的利益です。1兎はどの同窓会でも図っていることですから、当然のことです。しかし、2兎3兎は努力しないと実現しないものです。

今日は2兎の社会貢献に付いて述べてみましょう。

「同窓会は内輪の会合なのだから何も社会貢献を考える必要がない」という意見もあるかもしれませんが、私は仲間内の組織でも社会貢献は必要だと思っております。何故社会貢献が重要かという、特定の仲間だけで内輪だけの活動をしていては活動に或いはその活動の意義に限界が生じてしまうからです。何らかの意味で社会と接していなければ、社会に貢献していなければ、周囲から高い評価を得られません。いくつかの地域同窓会は既に社会貢献事業を実施しています。公開講演会を実施したり、地域の社会福祉団体と共同で事業を行ったり、県の施設を利用して地域の人々と催し物を開催したりしています。

浦和麗和会としても何か社会貢献事業を実施したい、これが私の思うところなのです。それでは何をするか。

私は東京周辺の大緑地帯である見沼田んぼに眼を付けて、地球の環境保全のために（随分大上段に構えましたが）、見

沼田んぼで稲作をしようと提案しましたが、同窓会のメンバーからは「体力的にキツ過ぎる」と言う意見が大勢で、当面は諦めざるを得なくなりました。

それでは何が出来るだろうかと考えた結果、身近に適切な案件を見つけました。それは浦高同窓会奨学財団に寄付することです。

奨学財団の資金を原資としてミシガン大学やホイットギフト高校などに留学生を派遣しています。派遣する生徒は、浦高生ないしは浦高OBが中心となっていますが、この財団は公益財団法人ですので、対象は浦高生に限定するものではないのです。他校の生徒でも優秀な生徒は奨学金を受け取ることが出来る制度となっています。

心情的には浦高生を留学させたいという考えも分かりますが、公益法人であることを幸いと考えると、積極的に優秀な人材を県内の高校から発掘することを考えましょう。浦高に限らず優秀な生徒に奨学金を授与して留学させることは奨学財団の評価を上げることに繋がると思います。

そうです。浦高生及び浦高以外の生徒に奨学金を授与することは社会貢献なのです。従って、その財団に寄付することも一つの社会貢献なのです。寄付は強制ではありません。理想的には定期的に寄付できることですが、無理をせず懐に余裕がある時だけでもいいのです。

財団に寄付することにより浦高生に留学のチャンスを与え、浦高生以外の優秀な生徒にチャンスを与えることにより社会貢献ができるのです。奨学財団に寄付することにより社会貢献の第一歩を踏み出しましょう。

第21回浦和麗和会 開催される

11月26日（土）浦和ワシントンホテルにおいて、浦和麗和会通常総会・講演会・懇親会が開催されました。来賓に浦和高校杉山校長、大宮浦高会今村会長ほか5つの地域浦高会の皆様を迎え盛会となりました。

第二部の講演会では、講師に三菱地所取締役会長で浦和高校同窓会・木村会長をお招きし、「三菱地所による東

京駅前再開発プロジェクト」という演題でお話をいただきました。

丸の内地区の再開発の状況を資料とともに丁寧に説明され、貴重な講演となりました。

今回は若手会員の参加も増え、懇親会で名刺交換を行うなど、活気あるものとなりました。浦和麗和会員どうし多様な人脈づくりに寄与できればと考えております。宴の後半では歌声喫茶最後に恒例の校歌斉唱と続き、全員が一つになり閉会となりました。



浦和麗和会岩淵会長による歌唱指導



浦高生の活躍を紹介する杉山校長先生



木村会長による講演



雑談にも熱が入ります

浦和麗和会・春の研修会

大宮公園駅からの散歩コース

今年の研修会は大宮盆栽美術館と埼玉県立歴史と民俗の博物館を訪れました。4月9日曜日、小雨が降る中、13名の参加者がありました。この時期の大宮公園は桜の花見で賑わいがあり、解散後は三々五々お花見も楽しみました。

盆栽美術館ではボランティアガイドの案内があり、盆栽がより身近なものとなりました。説明を聞くほどに奥深い世界に引き込まれ、長い年月の重みが醸し出す美しさに見とれてしまいました。歴史と民俗の博物館では、今回参加された藤野氏（博物館の元館長）から普段知らない知識を伝授され、より充実した見学会となりました。

さて盆栽という日本の伝統文化については世界が注目しており、



大宮盆栽美術館にて



埼玉県立歴史と民俗の博物館にて

大宮盆栽村を訪問する外国人も増加しております。今年4月27日から第8回世界盆栽大会がスーパーアリーナで開催されました。実行委員長を務めたのは大宮浦高会の加藤初治（高13）です。大会は4年に1度、さいたま市で開催されるのは28年ぶりのことでした。愛好家も含めて、たくさんの方が参加されました。

悲しみを乗り越えて

—— 会員の訃報が続く ——

名誉会長 星野 和央（高4）

この稿を誌すにあたって、先輩、同輩、後輩であるのに拘らず、同窓に敬意を表わす意をこめて、全て敬称を略させていただいた。

ごく最近の訃報は、田中薫（高11）

である。会報「麗和会うらわ」の前号に、彼が執筆した本『ハモニカ長屋の頃』を紹介したばかりなのに、この七月二十日に鬼籍に入ってしまった。頬に手を添え、白い菊花に縁どりされた本をイメージした祭壇を眺め、読書三昧に耽けている遺影は印象的であった。私が浦中生の時の担任・田中一先生のご子息であるから、悲しみは深い。

田中の追悼文を記そうとすると、別の同窓諸氏のこと脳裏を過ぎってしまう。平成八年に発会した浦和麗和会なので20年も活動してきたが、鬼籍に入った方も多い。直近では、今年の一ヶ月、綿貫均（高14）が急逝した。浦高通り商店会のリーダーで、「浦中浦高たけまさ会」会長であった。旧臘では、田中と同期の宮崎一幸である。「東洋

経済新報」の編集者で、辛辣なコメントーターであった。

私は浦和麗和会の設立総会の折、丁寧に記録写真を撮っていた藤井泰光

（高7）を思い浮かべた。倉持守三郎

（高4）と共に、日本でサッカーの国際審判員一号で、ふたりとも鬼籍に入ってしまった。いま手元にある記録写真を眺めながら、設立当時にお世話になり、いまは亡き方々を紹介することにしよう。

設立時の大立物は相川曹司（中43）。

百周年の浦高同窓会長で、元浦和市長である。ついで同窓会副会長であった斎藤裕（中40）は麗和会館を建てた斎藤工業社長。当時、浦和商工会議所副会頭、調神社筆頭総代の竹田千蔵（48）は麗和会で「浦和の街いまむかし」を語っていた。個人的な生き方で魅力した月岡良太郎（高1）はインテリアデザイナー。

忘れられないのは中島進（高3）で、麗和会の初代事務局長として現在のレ

ールを敷いてくださったといえる。りそな銀行営業部長で辣腕をふるった。また同窓会百十周年の中核事業となった「百年の森」の牽引者となった内藤勝久（高10）は、得意な山登りで事故死してしまう。

浦和市役所秘書課長であった田中彰一（高6）、日本柔道連盟副会長の長谷川博之（高7）、埼玉りそな銀行副

頭取の橋本好央（高8）らも当会の仲間であっただけに、再び出会えないのは寂しい。

わが浦和麗和会は27ある同窓会地域組織の中心的存在であるだけに、鬼籍に入られた仲間たちも多くおられる訳だが、記載できなかつた方には失礼をお詫びしたい。

（合掌）



設立総会で祝辞をのべる相川曹司相談役（平成8年）

「朋あり遠方より来る、 また楽しからずや」

星野 晃輝（高2）

今年の浦和麗和会の総会が開催される一週間前の十一月十八日に全国高校ラグビー大会の埼玉県予選の決勝戦が開催されます。今年は第三シードで決勝に勝てば、2013年に続き第三回目の出場となります。昨年も決勝で深谷高校に惜しくも敗退し、花園を逃しました。前回の花園出場は五十四年振りの出場で、私も花園まで観戦に行きました。是非とも今年も連れて行ってもらいたいです。

ラグビー部は私の高校生活において大きな部分を占めていました。今では観戦するだけです。後輩たちの試合を見てみると、思わず拳に力が入り、声も出てしまいます。

ラグビー部の同期とは、高校を卒業してからも暫くは時々会ったりしていたのですが、お互いに社会人になり、だんだんと会う機会が少なくなってきました。昨年、同期の一人がインドネシアの日本大使館から戻って来た機会に仲間に連絡し、顧問の小畔先生

を囲んでラグビー部の同期会をもちました。久しぶりに見る顔や体はすっかり「親爺」でしたが、やはり当時の面影が残り、合宿の話や最後の県予選試合の話、現在の近況報告など、楽しい時間を過ごす事ができました。ただ、残念なことは一人が亡くなり、一人が病気のため欠席したことです。

同期はもとより先輩や後輩と合うと、思い出が甦ります。この歳となると、その懐かしさは一層あたたかく貴重なもの思えてきます。多くの知人があっても、趣味が一致しているとか、おなじ志で一筋に生きている人とめぐり合うチャンスは稀であり、折角出合いがあっても、いろいろの事情で、関係が疎になつていくことも少なくありません。そんな中で、遠く離れていても、会えない時が続いても、縁が途切れることなく、出会うときには、一気にその空白を越

えてしまえる、そんな友を持つことは、人生の大きな楽しみであると同時に、人生そのものを豊かなものにします。

まさに、浦和麗和会もそのような縁の生きる場のひとつと思います。部活動に限らず、浦和高校で過ごした日々は、一人ひとりにとって、かけがえない青春の時間だったと思います。浦和高校で共に過ごしたという縁を僥倖として、是非、浦和麗和会を今後の活動の場に加えていただければ、と思います。



高校2年生の時、部室の前で

事務局より

会費の振込用紙を同封させていただきましたので、総会に出席出来ない方は会費2,000円を住所、氏名、卒業回を記載の上、お振り込み下さい。

第二十二回通常総会のご案内

日時 平成二九年十一月二五日（土）

午後5時 開会

（受付午後四時三〇分より）

場所 浦和ワシントンホテル3階

ブルムローズ

次第 総会 午後五時～五時三〇分

講演会 午後五時四〇分～六時三〇分

「2019年ラグビーワールドカップの成功に向けて」

講師 坂下 辰夫 氏

埼玉県ラグビーフットボール協会 理事長（高23回）

懇親会 午後六時〇分～八時三〇分終了迄

会費 8,000円

皆様のご出席をお待ちしております。

新会員募集のお願い

お知り合いの方をご紹介下さい。事務局までご一報いただければ、事務局より会報と入会申込書を郵送させていただきます。

浦和麗和会事務局

さいたま市浦和区

仲町3-8-11-101

央浦印刷社内

電話 090-3069-5922

FAX 048-831-0011

幹事長 星野 晃輝（高24）